

平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月6日

上場会社名 株式会社 翻訳センター
 コード番号 2483 URL <http://www.honyakuctr.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 郁男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長兼総務部長 (氏名) 中本 宏
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 06-6282-5013

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	2,082	49.8	75	97.2	73	94.7	37	91.9
25年3月期第1四半期	1,390	14.1	38	△34.5	37	△34.9	19	△33.5

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 47百万円 (88.3%) 25年3月期第1四半期 25百万円 (△15.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	22.29	—
25年3月期第1四半期	11.61	—

当社は、平成25年3月1日開催の取締役会の決議に基づき、平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っております。そのため、当該分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	3,805		2,434			63.8
25年3月期	3,822		2,463			64.3

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 2,429百万円 25年3月期 2,458百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	4,500.00	4,500.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	0.00	—	45.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成25年3月1日開催の取締役会の決議に基づき、平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っておりますが、平成25年3月期の配当金については、当該株式分割前の株式数を基準に配当を実施しております。

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,100	35.4	140	△0.2	140	△0.2	70	1.2	41.50
通期	8,800	21.0	470	11.1	470	11.1	240	9.0	142.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期1Q	1,684,500 株	25年3月期	1,684,500 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

26年3月期1Q	— 株	25年3月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期1Q	1,684,500 株	25年3月期1Q	1,684,500 株
----------	-------------	----------	-------------

当社は、平成25年3月1日開催の取締役会の決議に基づき、平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っております。そのため、当該分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して、上記の株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、長引く欧州債務危機や中国における経済成長率鈍化などがあつたものの、新政権による経済対策や金融政策により円安が進行し、輸出や生産の持ち直しや設備投資の下げ止まりなど、企業の業況判断や消費者心理にも改善の動きが見られました。

このような環境のもと、当社グループでは平成25年3月期から平成27年3月期までを対象とする第二次中期経営計画を昨年9月に発表し、「すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ」という経営ビジョンのもと、言葉に関する事業領域の拡大による新たな価値創造を推し進め、企業のグローバル展開に伴う翻訳・通訳需要の獲得に努めてまいりました。

これらの結果、昨年9月に連結対象としたISSグループの業績が順調に推移したことなどにより、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期比49.8%増の2,082百万円、営業利益は前年同期比97.2%増の75百万円、経常利益は前年同期比94.7%増の73百万円、四半期純利益は前年同期比91.9%増の37百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、株式会社アイ・エス・エス・インスティテュートを中心とした語学教育事業を報告セグメントの区分に変更しております。

① 翻訳事業

特許分野では、企業の知的財産関連部署における取引拡大と新規顧客開拓が奏功したものの、既存顧客である特許事務所から電気関連出願用明細書の発注が減少したことから、売上高は前年同期比1.6%減の401百万円となりました。医薬分野では、前期獲得したプリファードベンダー（注）契約に基づく受注が今期も継続的に拡大していることに加え、複数のメガファーマとの新たなプリファードベンダー契約の獲得や製薬会社からの新薬申請資料の受注が好調に推移したことから、売上高は前年同期比7.4%増の463百万円となりました。工業分野では、ウェブサイト関連の大型プロジェクト案件や情報通信関連企業からの定期案件を獲得したものの、売上の主軸となる自動車関連企業からの受注が低調に推移したことから、売上高は前年同期比8.4%減の346百万円となりました。金融分野では、前期より注力している企業の管理関連部署への営業活動が奏功したことに加え、保険会社からのスポット案件を獲得したことから、売上高は前年同期比25.2%増の149百万円となりました。これらの結果、翻訳事業の売上高は前年同期比1.6%増の1,360百万円となりました。

② 派遣事業

派遣事業においては、各種金融機関や情報通信関連企業への通訳者・翻訳者派遣など、ISSグループの売上が寄与したことから、売上高は前年同期比725.7%増の360百万円となりました。

③ 語学教育事業

語学教育事業においては、株式会社アイ・エス・エス・インスティテュートの通訳者・翻訳者育成のレギュラーコース（4月～8月開講）において計画を上回る受講申込を確保できたため、売上高は63百万円となりました。

④ その他

その他のセグメントについては、6月に横浜で開催された「第5回アフリカ開発会議（通称：TICAD V）」の全体運営を受託するなど、株式会社アイ・エス・エスの国際会議企画・運営事業の売上が大きく寄与したことに加え、同社の通訳事業も順調に推移したことから、売上高は前年同期比3,075.3%増の298百万円となりました。

（注）プリファードベンダーとは、企業が優秀な人的リソースの確保と費用低減を狙い、優先的に業務を委託する特定の調達先（ベンダー）を指す。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は2,977百万円となり、前連結会計年度末に比べ136百万円減少いたしました。これは主に東京本部の移転予定に伴う敷金の支払い、未払法人税等の支払いおよび配当金の支払いなどにより現金及び預金が165百万円減少したことによるものであります。固定資産は828百万円となり、前連結会計年度末に比べ118百万円増加いたしました。これは主に東京本部の移転予定に伴い敷金が増加したことによるものであります。

この結果、総資産は3,805百万円となり、前連結会計年度末に比べ17百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は1,199百万円となり、前連結会計年度末に比べ18百万円増加いたしました。これは主に未払法人税等および賞与引当金が減少したものの、買掛金が増加したことによるものであります。固定負債は171百万円となり、前連結会計年度末に比べ6百万円減少いたしました。これは主に年金資産の積み立てにより退職給付引当金が減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,370百万円となり、前連結会計年度末に比べ11百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は2,434百万円となり、前連結会計年度末に比べ28百万円減少いたしました。これは主に四半期純利益の計上37百万円および剰余金の配当75百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の業績予想については、現時点では平成25年5月10日の決算発表時に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,747,694	1,581,712
受取手形及び売掛金(純額)	1,142,828	1,145,121
仕掛品	61,938	85,587
その他	160,990	164,975
流動資産合計	3,113,451	2,977,396
固定資産		
有形固定資産	86,413	86,454
無形固定資産		
のれん	250,817	262,878
その他	111,154	100,276
無形固定資産合計	361,971	363,154
投資その他の資産	260,711	378,484
固定資産合計	709,096	828,094
資産合計	3,822,548	3,805,490
負債の部		
流動負債		
買掛金	535,017	626,354
未払法人税等	80,830	38,717
賞与引当金	147,845	89,054
その他	417,410	445,226
流動負債合計	1,181,104	1,199,351
固定負債		
退職給付引当金	130,467	124,724
役員退職慰労引当金	35,400	35,400
その他	12,474	11,444
固定負債合計	178,341	171,568
負債合計	1,359,446	1,370,920
純資産の部		
株主資本		
資本金	588,443	588,443
資本剰余金	478,823	478,823
利益剰余金	1,389,594	1,351,349
株主資本合計	2,456,860	2,418,615
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	346	△407
為替換算調整勘定	1,567	11,762
その他の包括利益累計額合計	1,913	11,355
少数株主持分	4,328	4,598
純資産合計	2,463,102	2,434,570
負債純資産合計	3,822,548	3,805,490

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	1,390,190	2,082,973
売上原価	771,872	1,174,078
売上総利益	618,317	908,894
販売費及び一般管理費	580,163	833,633
営業利益	38,153	75,261
営業外収益		
受取配当金	500	1,000
受取手数料	192	192
その他	236	111
営業外収益合計	928	1,303
営業外費用		
為替差損	1,394	3,181
営業外費用合計	1,394	3,181
経常利益	37,687	73,383
税金等調整前四半期純利益	37,687	73,383
法人税等	17,672	35,941
少数株主損益調整前四半期純利益	20,014	37,441
少数株主利益	448	△116
四半期純利益	19,565	37,558

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	20,014	37,441
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	193	△753
為替換算調整勘定	4,886	10,582
その他の包括利益合計	5,079	9,828
四半期包括利益	25,094	47,270
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	24,465	46,999
少数株主に係る四半期包括利益	628	270

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	語学教育 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,337,127	43,665	—	1,380,793	9,397	1,390,190
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,080	18,577	—	20,658	18,207	38,865
計	1,339,207	62,243	—	1,401,451	27,604	1,429,056
セグメント利益又は損失(△)	32,384	8,340	—	40,724	△920	39,803

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	40,724
「その他」の区分の損失(△)	△920
セグメント間取引消去	421
のれんの償却額	△2,071
四半期連結損益計算書の営業利益	38,153

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	語学教育 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,360,377	360,591	63,612	1,784,582	298,390	2,082,973
セグメント間の内部 売上高又は振替高	732	7,521	—	8,253	15,781	24,035
計	1,361,110	368,113	63,612	1,792,835	314,172	2,107,008
セグメント利益	17,925	44,210	14,504	76,640	17,624	94,265

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国際会議企画・運営事業および通訳事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	76,640
「その他」の区分の利益	17,624
セグメント間取引消去	△2,970
のれんの償却額	△16,034
四半期連結損益計算書の営業利益	75,261

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、「その他」に含めていた「語学教育事業」について、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。